



国際石油開発帝石株式会社
2019年12月期第2四半期
決算説明会 2019年11月7日

- 事業活動報告
- 2019年12月期 第2四半期決算説明
- 2019年12月期 業績予想

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報(将来予想に関する情報を含む)を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

事業活動報告

代表取締役社長
上田 隆之

2019年12月期第2四半期 決算説明会 ハイライト

ネット生産量

- 2019年12月期第2四半期実績 日量約56.8万バレル*(原油換算)(前年同期比約60%増)
*当社の年度平均ネット生産量と比較し、過去最高

決算

- 決算:2019年12月期第2四半期 (2019年4月～2019年9月)
 - 連結売上高5,752億円(前年同期比31.3%増)
 - 親会社株主に帰属する純利益 694億円(前年同期比104.2%増)

業績予想

- 業績予想:2019年12月期(2019年4月～2019年12月:9ヶ月決算**)
 - 連結売上高 9,840億円
 - 親会社株主に帰属する純利益 1,000億円

**決算期の変更により、経過期間となる2019年12月期は、2019年4月から12月までの9ヶ月間の変則決算を予定。
参考データ集P.1ご参照

1株当たり 配当金

- 2019年12月期(予想)
 - 年間:27円(中間:12円、期末:15円(12円から3円増配))***

***2019年11月6日:「2019年12月期 配当予想の修正に関するお知らせ」を公表

プロジェクト ハイライト

- イクシスLNGプロジェクト
 - 生産ランプアップが極めて順調に進んでいる状況
- アバディLNGプロジェクト
 - 陸上LNGによる開発を前提とした改定開発計画の承認を取得
 - PSCの期限を2055年とする延長契約締結
- アブダビ油田プロジェクト
 - 既存油田の生産能力増強に向け開発作業が進行中

- アゼルバイジャン共和国 カスピ海ACG鉦区における追加開発の最終投資決定(4月)
- オーストラリア プレリユードFLNGプロジェクト 液化天然ガス(LNG)の出荷開始(6月)
- オーストラリア北西大陸棚 探鉦鉦区(AC/P66)の落札(7月)
- 米国メキシコ湾キースリーキャニオン921/965、ウォーカーリッジ 881/925鉦区権益の取得(7月)
- インドネシア共和国 アバディLNGプロジェクトにおいて、改定開発計画(POD)を本年6月にインドネシア政府当局へ提出し、7月に承認を取得。また、生産分与契約(PSC)期間延長等にかかる調印式実施(10月)
- ブラジル連邦共和国 フラージ鉦区の権益売却(10月)
- CO₂を有効活用するメタン合成試験設備の完成、試運転開始(10月)

イクシスLNGプロジェクト 生産開始後の状況

■ ランプアップ状況

- 生産ランプアップが極めて順調に進んでいる状況

■ 出荷LNGカーゴ数

- LNGカーゴ(昨年10月の初出荷時から2019年10月31日時点までの累計):94カーゴ

	2018年10月～2019年3月	2019年4月～10月	合計
LNGカーゴ数	31	63	94

- プラトー生産時は年間120LNGカーゴ程度を見込む

■ 生産井の掘削状況・見通し

- 18坑の掘削作業・仕上げ作業を完了
- 引き続き、掘削作業を継続中(合計50坑程度を掘削予定)

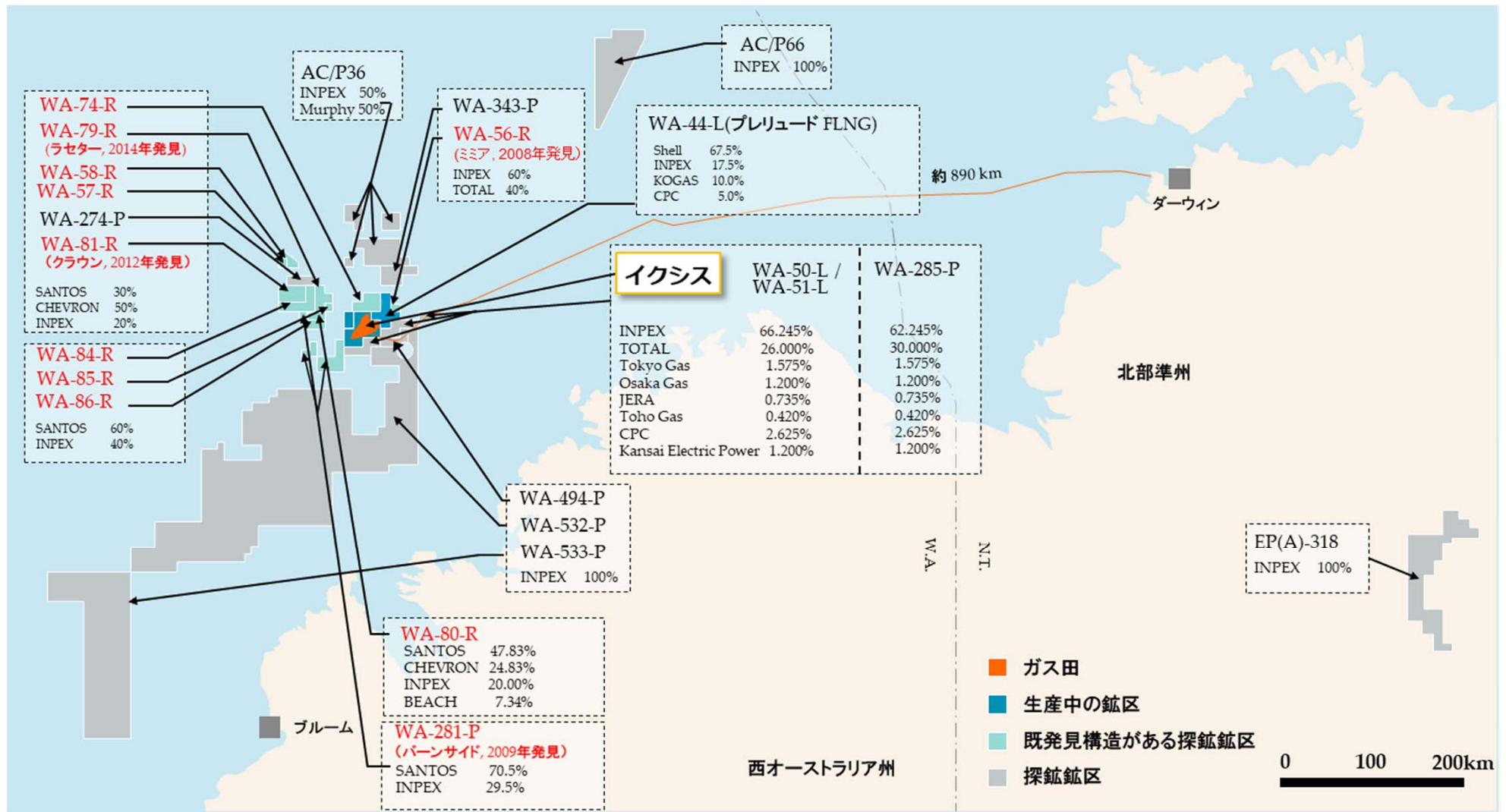
■ OPEX(操業費)

- プラトー生産時の生産コストは、当社全体の足元の生産コストと同程度の水準を見込む



イクシス ガス・コンデンセート田のFPSO

イクシスLNGプロジェクト 周辺探鉱鉦区



- イクシスフィールド周辺には18の探鉱鉦区を保有。これまでに、クラウン、ラセター、ミミア、バーンサイド等のガス構造を発見し、これらのガス構造は少なくとも11鉦区に亘る
- 従前よりダーウィンに複数の追加トレインが建設可能な用地確保済

アバディLNGプロジェクト(1/3)



■ 権益比率:

- 当社(オペレーター) 65%、Shell 35%

■ 生産規模:

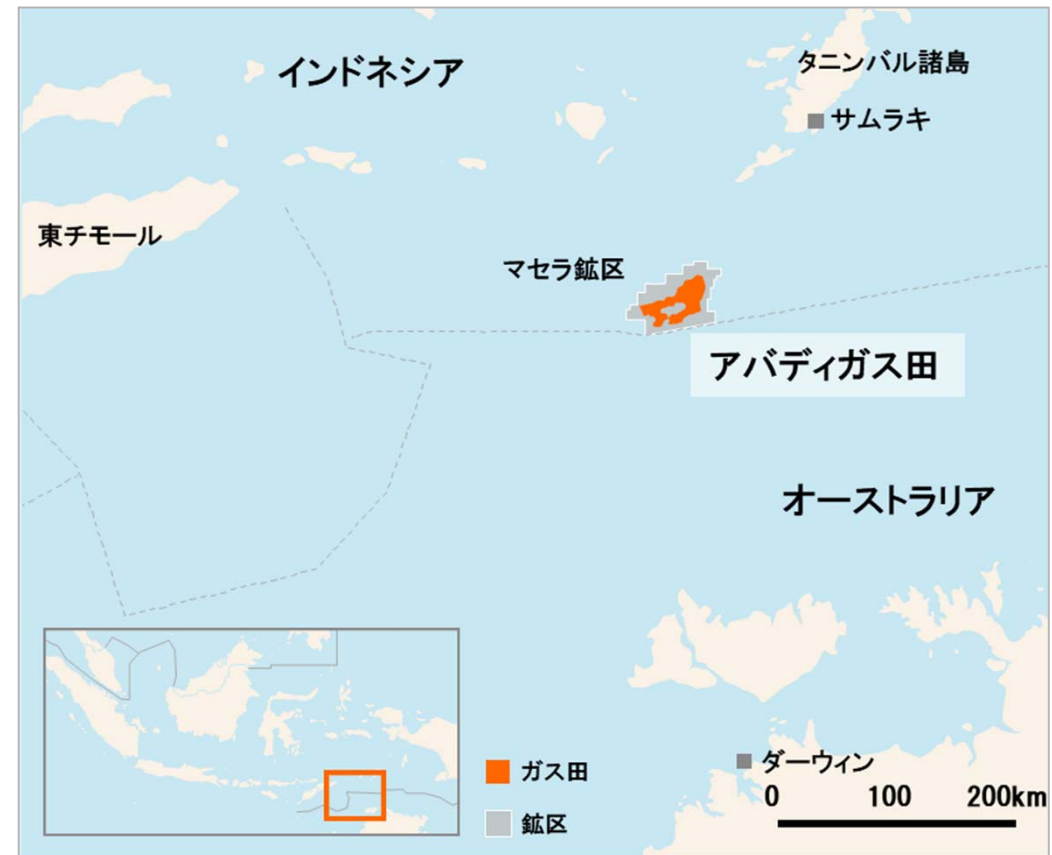
- 天然ガス総生産量(LNG 換算) 年産 1,050 万トン
 - LNG年産 950万トン規模
 - 鉱区周辺地域の現地需要向けにパイプラインガス供給を予定
- コンデンサート日量最大約 3.5 万バレル規模

■ 契約期間:

- 1998年11月16日～2055年11月15日
(2019年10月、旧生産分与契約(PSC)期限2028年を2055年とするPSC延長契約等を締結)

■ 現況

- 本年6月、陸上LNGによる開発を前提とした改定開発計画(POD)をインドネシア政府当局へ提出し、7月に承認を取得
- 現在、2020年代後半の生産開始を目指し、基本設計(FEED)作業開始の準備作業中
- イクシスで獲得した知見・経験を活かした効率的な開発を推進
- 2017年6月にインドネシア政府からNational Strategic Projectに、同年9月にはPriority Infrastructure Projectに認定



アバディLNGプロジェクト(2/3)

INPEX

■ 十分な経済性を有するプロジェクト

- 契約期間を2055年まで確保済
- アバディガス田は世界有数の良好なガス田性状を有し、効率的な生産が可能
- 年産950万トン規模のLNGを20年以上にわたって生産可能な埋蔵量を確認済
- 十分な財務条件を確保済

■ 今後の予定

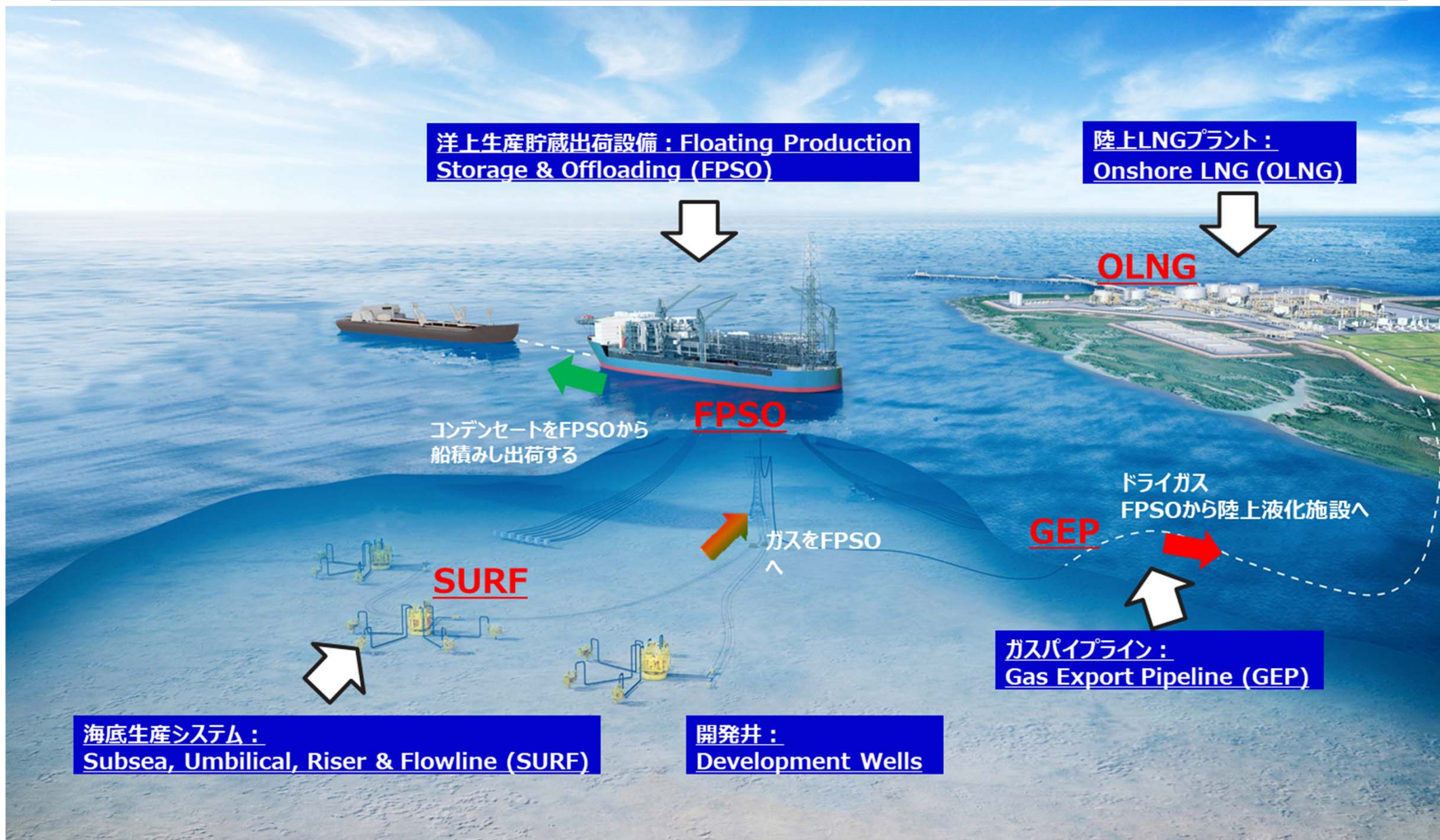
- 基本設計(FEED)作業実施
- 最終投資決定、EPC段階に移行
- 2020年代後半の生産開始を目指す



改定開発計画承認の様子

アバディLNGプロジェクト(3/3) 開発コンセプト図

INPEX



上流事業のトピックス (生産・開発プロジェクト)

INPEX

アブダビ陸上鉱区 (生産中:アブダビ首長国)



- 目標生産能力
- 日量約200万バレル

■ 進捗

- 2018年末までに目標生産能力日量約180万バレルを達成し、2020年末までに生産能力を日量200万バレルへと引き上げるべく、開発作業中

アブダビ海上油田 (生産中:アブダビ首長国) (上部ザクム油田・下部ザクム油田・サター油田・ウムアダルク油田)



- 目標生産能力
- 上部ザクム油田:日量約100万バレル
- 下部ザクム油田:日量約45万バレル
- サター油田:日量約2.5万バレル
- ウムアダルク油田:日量約2万バレル

■ 進捗

- 4つの油田の生産能力を合計で日量約150万バレルに引き上げるべく、開発作業中
- 下部ザクム油田においては、アセットリーダーとしてADNOC(アブダビ国営石油会社)及びパートナー各社と密接に連携し、主導的な立場で開発作業中

カシャガン油田 (生産中:カザフスタン)



■ 進捗

- 日量37万バレル達成済。生産日量45万バレルを目指し作業中

プレリユードFLNGプロジェクト (生産中:オーストラリア)



■ 生産量(予定)

- LNG:年間360万トン
- LPG:年間約40万トン(ピーク時)
- コンデンセート:日量約3.6万バレル(ピーク時)

■ 進捗

- 2018年12月、生産井からのガス生産開始
- 2019年3月、コンデンセートの出荷開始
- 2019年6月、LNGの出荷開始

上流事業のトピックス (探鉱プロジェクト)

北西大陸棚 AC/P66鉱区

(探鉱中:オーストラリア北西大陸棚(優先探鉱エリア))



一部暫定領海線を含む

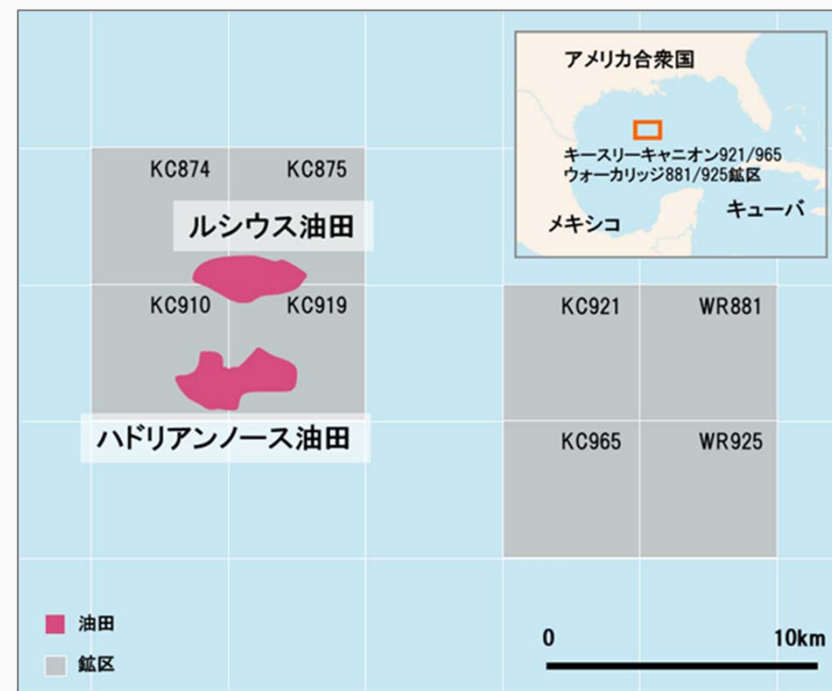
■ AC/P66鉱区

- 2019年7月、本鉱区を落札
- 当社権益:100% (オペレーター:当社)
- 今後、探鉱作業を実施予定。

キースリーキャニオン921/965

ウオーカーリッジ881/925鉱区

(探鉱中:米国メキシコ湾(優先探鉱エリア))



■ KC921/965、WR881/925

- 2019年7月、現Occidental社より鉱区権益を取得することに合意。
- 当社権益:40% (オペレーター:Occidental社)
- 評価作業を進め、早期に試掘井を掘削する予定。

国内天然ガス事業及び 再生可能エネルギーへの取り組み

INPEX

国内天然ガス事業



直江津LNG基地

- 天然ガス販売
 - 2019年3月期販売量:21.7億m³*
 - 2019年12月期上半期販売量:9.6億m³*
 - 2019年12月期(9ヶ月決算)販売量見通し:15.4億m³*
- 直江津LNG基地
 - 2018年10月、イクシスの第1船(パシフィック・ブリーズ)が入港
 - 2019年2月、イクシスからオセアニック・ブリーズが初入港

* 1m³当たり41.8605MJ換算

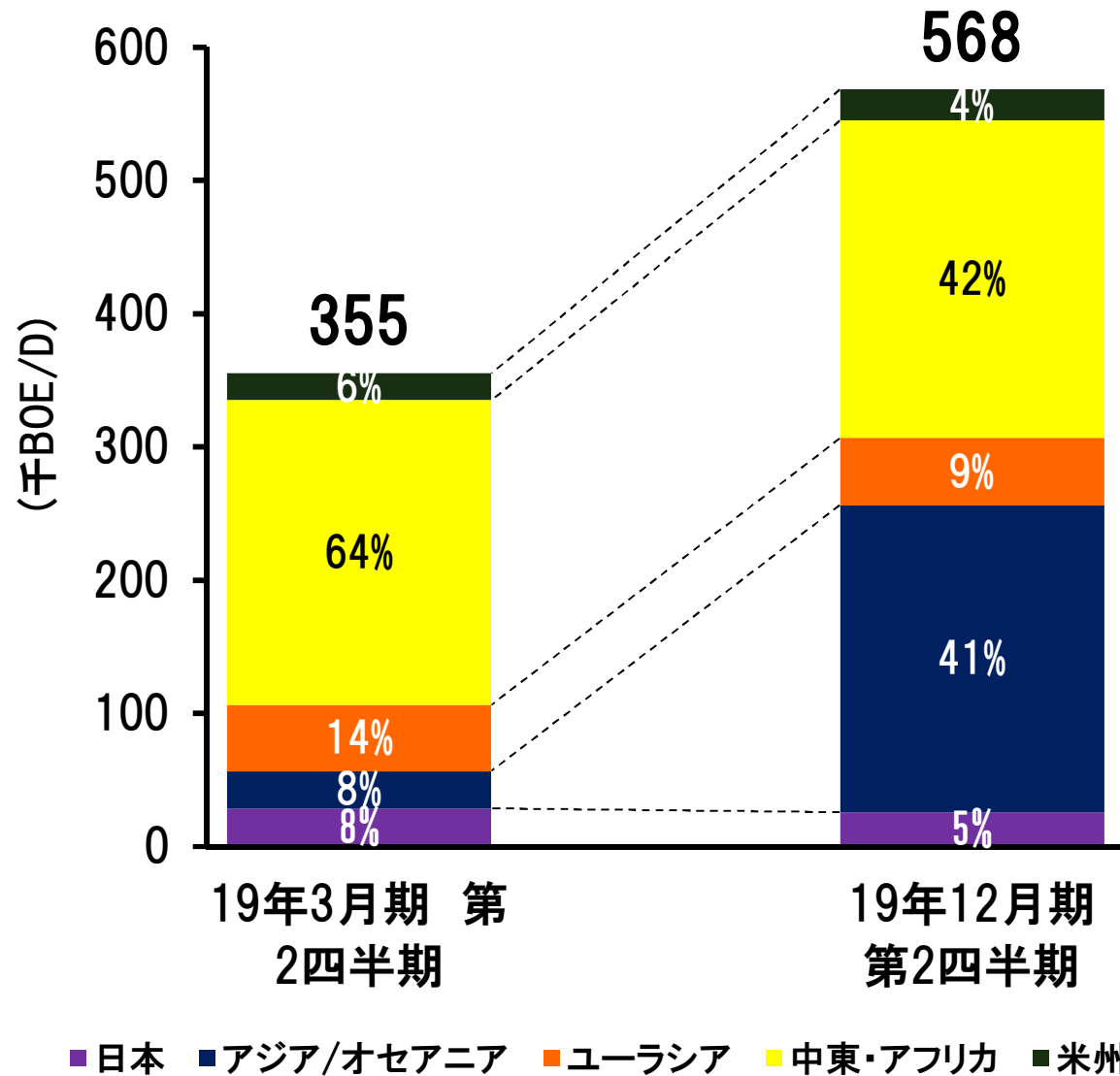
再生可能エネルギー事業・CO2有効利用技術開発事業



メタネーション試験設備

- インドネシア サルーラ地熱IPP事業
 - 2018年5月から総出力約 330MWで商業運転中
- 国内地熱事業
 - 秋田県湯沢市小安地域での地熱発電所建設へ向けた環境アセスメントの開始
- メタネーション
 - NEDOのCO2有効利用技術開発事業として、CO2と水素からメタンを合成する試験設備を当社長岡鉱場の越路原プラント敷地内において完成・試運転開始

2019年12月期第2四半期 ネット生産量*



主な増加要因

- イクシス及びプレリウドプロジェクト生産開始
- シェールオイル生産・開発権益の取得

* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

中期経営計画 2018-2022 の進捗 及び今期見通し

	2019年3月期の実績 (中期経営計画1年目) 2018年4月～2019年3月	2019年12月期の見通し 2019年4月～2019年12月 :9ヶ月決算 (2019年11月6日に公表)	2022年12月期の目標 (中期経営計画最終年度)
原油価格・為替前提	70.86ドル・110.93円/ドル	63.5ドル・109.1円/ドル	60ドル・110円/ドル
成長投資	4,884億円	2,510億円(9ヶ月決算)	1兆7,000億円 (5年間累計ガイダンス)
売上高	9,713億円	9,840億円(9ヶ月決算)	1兆3,000億円程度
親会社株主に帰属する 当期純利益	961億円	1,000億円(9ヶ月決算)	1,500億円程度
ネット生産量	日量42.4万バレル (原油換算)	日量57.7万バレル 注1 (原油換算)	日量70万バレル (原油換算)
株主還元	1株あたり配当金24円 (中間9円+期末15円(普通配 当9円、記念配当6円)) 配当性向36.5%	1株あたり配当金27円(予想) (中間12円+期末15円(12円から3 円増配)) 配当性向39.4%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1株24円を下回らないよう安定的に配当を実施 ■ 業績の成長に応じて段階的に1株あたりの配当金を引き上げて、株主還元を強化 ■ 配当性向30%以上
注1: 期初見通し			

- 株主優待制度の導入の決定(10月28日付:「株主優待制度の導入及び株主さま向け施設見学会の実施に関するお知らせ」を公表)

2019年12月期 第2四半期 決算説明

取締役

副社長執行役員

財務・経理本部長 村山昌博

2019年12月期 第2四半期決算ハイライト

	19年3月期第2四半期 (2018年4月-9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	増減	増減率
売上高 (億円)	4,382	5,752	1,370	31.3%
原油売上高	3,729	4,243	513	13.8%
天然ガス売上高(LPG含む)	579	1,432	852	147.0%
その他	72	77	4	6.5%
営業利益 (億円)	2,264	2,807	542	24.0%
経常利益 (億円)	2,469	2,711	241	9.8%
親会社株主に帰属する 純利益 (億円)	340	694	354	104.2%
1株当たり純利益 (円)	23.31	47.59	24.28	104.2%

期中平均株式数(連結)2019年12月期第2四半期 1,460,200,688株

期中平均油価(Brent) (\$/bbl)	75.40	65.20	△ 10.20	△ 13.5%
期中平均為替 (¥/\$)	110.26	108.60	1円66銭円高	1.5%円高

原油売上高

	19年3月期第2四半期 (2018年4月-9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	増減	増減率
売上高 (億円)	3,729	4,243	513	13.8%

販売量 (千bbl)	46,462	58,868	12,406	26.7%
海外平均単価 (\$/bbl)	73.16	65.95	△ 7.21	△ 9.9%
国内平均単価 (¥/kl)	54,443	45,986	△ 8,456	△ 15.5%
平均為替 (¥/\$)	109.66	109.29	0円37銭円高	0.3%円高

地域別販売量 (千bbl)	19年3月期第2四半期 (2018年4月-9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	増減	増減率
日本	386 (61.4千kl)	376 (59.8千kl)	△ 10 (△1.6千kl)	△ 2.6%
アジア・オセアニア	1,033	8,288	7,255	702.3%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	7,124	6,262	△ 862	△ 12.1%
中東・アフリカ	37,353	43,228	5,874	15.7%
米州	566	714	149	26.3%
合計	46,462	58,868	12,406	26.7%

天然ガス売上高(LPG除く)



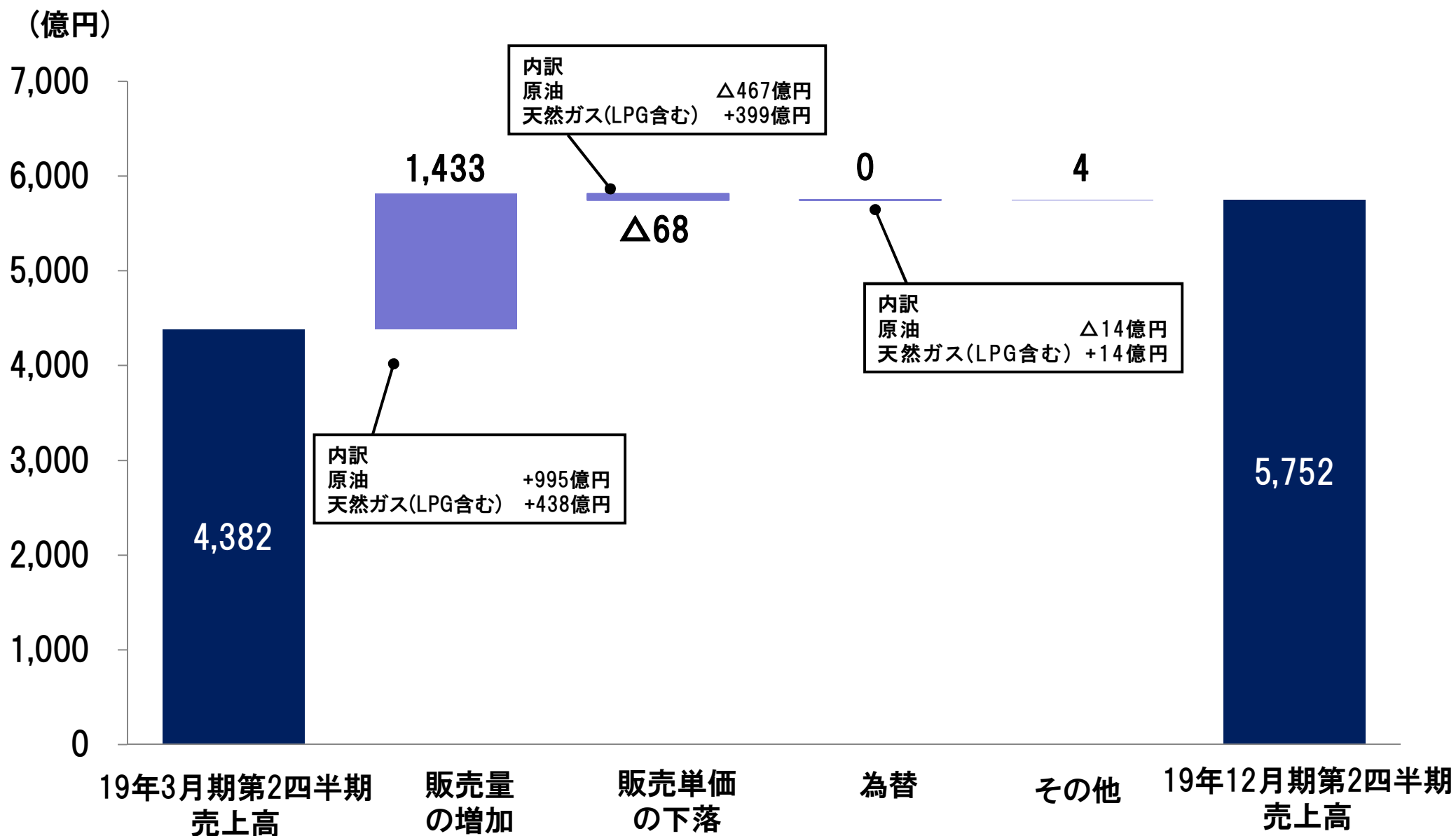
	19年3月期第2四半期 (2018年4月-9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	増減	増減率
売上高(億円)	575	1,417	841	146.2%

販売量(百万cf)	69,026	222,170	153,144	221.9%
海外生産分平均単価(\$/千cf)	2.67	4.42	1.75	65.5%
国内分平均単価(¥/m ³)	49.85	54.50	4.65	9.3%
平均為替(¥/\$)	106.84	108.62	1円78銭円安	1.7%円安

地域別販売量(百万cf)	19年3月期第2四半期 (2018年4月-9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	増減	増減率
日本	36,055 (966百万m ³ *)	35,825 (960百万m ³ *)	△ 230 (△6百万m ³ *)	△ 0.6%
アジア・オセアニア	10,147	169,150	159,003	-
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	4,869	4,132	△ 737	△ 15.1%
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	17,955	13,063	△ 4,891	△ 27.2%
合計	69,026	222,170	153,144	221.9%

*1m³当たり41.8605MJ

2019年12月期第2四半期 売上高 増減要因分析



損益計算書

(億円)	19年3月期第2四半期 (2018年4月-9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	増減	増減率
売上高	4,382	5,752	1,370	31.3%
売上原価	1,760	2,457	696	39.6%
売上総利益	2,621	3,295	673	25.7%
探鉱費	10	116	106	-
販売費及び一般管理費	347	372	24	7.1%
営業利益	2,264	2,807	542	24.0%
営業外収益	336	120	△ 215	△ 64.1%
営業外費用	130	216	85	65.8%
経常利益	2,469	2,711	241	9.8%
法人税等合計	2,059	1,997	△ 62	△ 3.0%
非支配株主に帰属する純損益	70	19	△ 50	△ 72.7%
親会社株主に帰属する純利益	340	694	354	104.2%

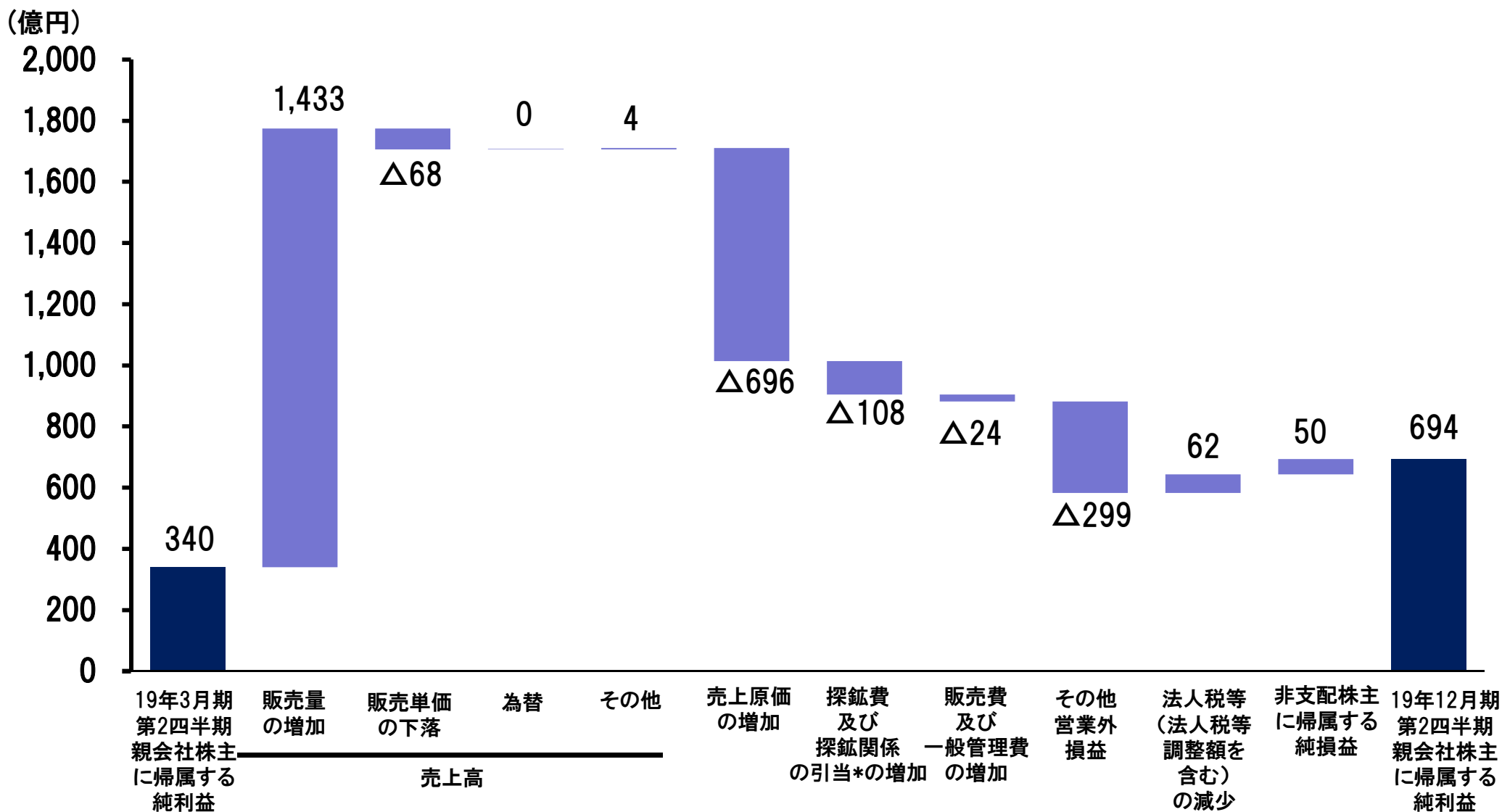
販売量の増加	+1,433
販売単価の下落 為替	△68 +0
その他	+4

原油売上原価: (増減)	1,689 +318
天然ガス売上原価 ^(注) : (増減)	714 +373
(注)LPGを含む。	

主な要因	
受取補償金	(増減△74)
持分法による投資利益	(増減△62)
為替差益	(増減△52)

主な要因	
支払利息	(増減+95)

2019年12月期第2四半期 純利益 増減要因分析 INPEX



*生産物回収勘定引当金繰入額

貸借対照表

(億円)	19年3月期末	19年12月期 第2四半期末	増減	増減率
流動資産	4,577	4,535	△ 41	△ 0.9%
有形固定資産	22,789	22,307	△ 482	△ 2.1%
無形固定資産	5,202	5,315	113	2.2%
生産物回収勘定	5,680	5,710	30	0.5%
その他	10,385	10,409	23	0.2%
生産物回収勘定引当金	△ 700	△ 697	2	△ 0.4%
資産合計	47,935	47,580	△ 354	△ 0.7%
流動負債	3,720	3,800	80	2.2%
固定負債	11,639	11,651	11	0.1%
純資産	32,575	32,129	△ 446 ●	△ 1.4%
(うち非支配株主持分)	2,511	2,501	△ 9	△ 0.4%
負債・純資産合計	47,935	47,580	△ 354	△ 0.7%
1株当たり純資産額 (円)	2,058.95	2,029.00	△ 29.95	△ 1.5%

イクシス下流事業会社(持分法適用)の
要約財務情報(100%ベース、内当社株
式比率は66.245%)

・流動資産	1,158億円
・固定資産	3兆6,867億円
・総資産	3兆8,025億円

※固定資産にはFID前投資、借入金の支
払利息分等が含まれる

株主資本合計	+483億円
その他の包括利益累計額	△921億円
・繰延ヘッジ損益	△348億円
・為替換算調整勘定	△583億円

キャッシュ・フロー

(億円)	19年3月期第2四半期 (2018年4月-9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	増減	増減率
税金等調整前当期純利益	2,469	2,711	241	9.8%
減価償却費	417	830	413	99.1%
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	100	193	93	93.3%
生産物回収勘定(非資本支出)の増減額(△は増加)	98	△ 42	△ 140	-
法人税等の支払額	△ 1,698	△ 1,870	△ 171	10.1%
その他	△ 278	△ 276	1	△ 0.7%
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,108	1,545	437	39.5%
定期預金の預入による支出/払戻による収入	△ 1,598	0	1,598	-
有形固定資産の取得による支出	△ 1,169	△ 662	507	△ 43.4%
投資有価証券の取得による支出	△ 14	△ 10	4	△ 30.1%
生産物回収勘定(資本支出)の支出	△ 153	△ 218	△ 65	42.9%
長期貸付けによる支出/回収による収入	△ 1,824	△ 751	1,072	△ 58.8%
権益取得による支出	-	△ 300	△ 300	-
その他	182	△ 1	△ 183	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,577	△ 1,944	2,633	△ 57.5%
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,251	249	△ 3,002	△ 92.3%
現金及び現金同等物の期末残高	2,610	2,191	△ 418	△ 16.0%

2019年12月期(9ヶ月決算)業績予想

取締役

副社長執行役員

財務・経理本部長 村山昌博

2019年12月期 第2四半期 業績予想値と実績値との差異

INPEX

◆前提条件

(2019年8月8日)	第2四半期連結累計期間 (前回発表予想)
Brent 油価(\$/bbl)	66.7
為替レート(円/US\$)	110.0

↓

(2019年11月6日)	第2四半期連結累計期間 (実績)
Brent 油価(\$/bbl)	65.2
為替レート(円/US\$)	108.6

◆ 第2四半期連結累計期間 業績予想値と実績値との差異(2019年4月～9月)

	前回発表予想 (2019年8月8日)	実績値	増減	増減率
売上高 (億円)	5,810	5,752	△57	△1.0%
営業利益 (億円)	2,760	2,807	47	1.7%
経常利益 (億円)	2,600	2,711	111	4.3%
親会社株主に帰属する純利益 (億円)	490	694	204	41.8%

2019年12月期 連結業績予想の修正



◆前提条件

(2019年8月8日)	上期	下期	通期
Brent 油価(\$/bbl)	66.7	65.0	66.2
為替レート(円/US\$)	110.0	110.0	110.0



(2019年11月6日)	上期	下期	通期
Brent 油価(\$/bbl)	65.2 ※1	60.0	63.5
為替レート(円/US\$)	108.6 ※2	110.0	109.1

※1 第1四半期実績\$68.5/bbl、及び第2四半期実績\$62.0/bblによる。 ※2 第1四半期実績109.9円/\$、及び第2四半期実績107.4円/\$による。

◆連結通期業績予想(2019年4月～2019年12月)

	前回予想 2019年8月8日	今回予想 2019年11月6日	増減	増減率
売上高 (億円)	9,880	9,840	△40	△0.4%
営業利益 (億円)	4,720	4,760	40	0.8%
経常利益 (億円)	4,600	4,650	50	1.1%
親会社株主に帰属する純利益 (億円)	900	1,000	100	11.1%

◆1株当たり配当金

	第2四半期末	期末(予想)
2019年12月期 (円)	12	15